

令和 5 年度

## 「運営に関する計画」

咲洲みなみ小中一貫校

大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校

令和 5 年 11 月

咲洲みなみ小中一貫校 大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校  
令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

# 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

### ● 生活指導面

- 本校の児童生徒は、比較的落ち着いて授業を受けることができおり、規範意識も高く学校のきまりや校則を正しく守っている。(学校評価アンケートにおいて「学校のきまり／ルールやマナーを守っていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、小学校で約 92%、中学校で約 93%。)
- 新たに不登校となる児童生徒の割合はわずかに増加傾向にある。(小学校：令和 3 年度約 0.3%→令和 4 年度約 1.5%、中学校：令和 3 年度約 0.9%→令和 4 年度約 1.0%)

### ● 学力・体力面

- 学力については、各調査において多くの学年が市または府の平均点を下回っている。令和 4 年度の小学校学力経年調査・中学校チャレンジテストにおける標準化得点は以下の通りで、基礎学力の向上が喫緊の課題となっている。

3 年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年
98.8	98.0	97.4	101.1	87.4	101.9	96.4

- 児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を保障すべく、一人一台端末をはじめとする ICT 機器を積極的に活用し、学習意欲の向上を図っている。
- 体力向上については、運動意欲と体力の向上を図る教科指導により、中学生は改善傾向にあるが、小学生は低迷が続いている。日々の食育指導を通して、自らの体力への関心は高まりつつある。

### ● その他

- 本校の児童生徒は自己肯定感が低く、学校評価アンケートにおいて「自分には良いところがある」の質問に対し肯定的回答を示した割合は、小学生は約 79% (前年度約 83%)、中学生は約 61% (前年度約 58%) といまだ低い状態である。日々のあらゆる教育活動の中でこれを高めていく必要がある。
- 大阪市で 5 校目の施設一体型小中一貫校として、本校の特色をこれまで以上に打ち出し、全市に向けて発信していく必要がある。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の学校評価アンケートで「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を小学校 85%、中学校 75%以上とする。
- 令和 7 年度の学校評価アンケートで「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校 90%、中学校 70%以上とする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査・中学校チャレンジテストにおける令和7年度標準化得点を3年～9年の全学年100以上とする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、8項目すべてで全国平均を上回る。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の学校評価アンケートで「タブレットやPCを取り扱うことは楽しい」の質問に対する肯定的回答の割合を小学校96%、中学校90%以上とする。
- 令和7年度において、ゆとりの日については月2回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては3日以上設定する。
- 令和7年度末で年間図書館を利用した児童生徒の延べ人数を小学校10,000人、中学校1,000人以上とする。
- 令和7年度まで保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を年々増加させる。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査・中学校年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に回答する児童生徒の割合を小学校・中学校ともに85%以上にする。（R04年度小学校79.1%、中学校78.5%）
- 年度末の校内調査において、不登校児童生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童生徒の改善の割合を増加させる。

#### 学校園の年度目標

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を100%にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査・中学校年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を小学校は45%、中学校は55%以上にする。（R04年度小36.6%、中44.6%）
- 小学校学力経年調査・中学校チャレンジテストにおける国語および算数・数学の平均正答率の対市比及び対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

R04	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
国語	97.0	97.2	95.3	99.6	83.6	91.8	91.1
算数/数学	99.2	97.9	96.9	98.0	77.6	104.3	93.9

- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。(R04 年度 90.7%)
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。(R04 年度 68.3%)
- 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を 60%以上にする。(R04 年度 52.9%)
- 小学校学力経年調査・中学校年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の質問に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童生徒の割合を小学校で 70%以上、中学校で 60%以上にする。(R04 年度小学校 61.5%、中学校 53.7%)

#### 学校園の年度目標

- 基礎学力の定着を目指し、学校評価アンケートにおける「家庭学習が習慣になっている」という質問に対する肯定的回答を小学校で 85%以上、中学校で 55%以上とする。(R04 年度小学校 77.5%、中学校 48.6%)

#### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標（小・中学校）

##### 【I C Tの活用に関する目標】

- 学校評価アンケートで「タブレットや PC を取り扱うことは楽しい」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校で 95%以上、中学校で 85%以上とする。(R04 年度小学校 92.7%、中学校 78.5%)

##### 【教職員の働き方改革に関する目標】

- 教職員の月間時間外勤務実績を前年より減少させる。(R04 年度小学校約 29 時間、中学校約 50 時間)
- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 95%以上にする。(R04 年度 89.0%)

#### 学校園の年度目標

- 学校評価アンケートで「読書は好きですか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を前年度より増加させる。(R04 年度小学校 82.6%、中学校 57.6%)
- 学校ホームページのアクセス数を年間 75,000 件以上とし、保護者地域への情報発信に努める。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

咲洲みなみ小中一貫校 大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校  
令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通目標(小・中学校)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 小学校学力経年調査・中学校年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を小学校・中学校ともに85%以上にする。(R04年度小学校79.1%、中学校78.5%)</li> <li>● 年度末の校内調査において、不登校児童生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</li> <li>● 年度末の校内調査において、前年度不登校児童生徒の改善の割合を増加させる。</li> </ul> <p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 年度末の学校評価アンケートにおいて、学校で認知したいじめについて解消した割合を100%にする。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● いじめ・不登校に関する共有を徹底するとともに、組織としての対応に努める。</li> <li>● 災害や事故を想定し、未然防止や適切な初期対応を徹底するため、適切な防災教育や教職員研修に努める。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 小学校学力経年調査・中学校年度末の学校評価アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を小学校97%以上、中学校95%以上にする。(R04年度小学校95.3%、中学校93.2%)</li> <li>➢ 避難訓練等、防災や事故防止に関する全校的な取組を年間3回以上実施する。</li> </ul>	B
<p>取組内容②【2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全学年、日々の授業のみならず総合等も含め、特色ある授業や芸術鑑賞、社会体験等を通して児童生徒の情操教育を進めるとともに、いじめ・不登校の未然防止を図る。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 児童生徒の「感じ方」や「人間性」の醸成につながる魅力的な学校行事・特別授業を、小中ともに年間2回以上実施する。</li> <li>➢ 児童生徒理解や生活指導に係る教職員研修を年間5回以上実施する。</li> </ul>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小中ともに当該の調査がまだ実施されていない。ちなみに、年度当初に実施された全国学力・学習状況調査においては、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に質問に対し、6年で約96%、9年で約93%の児童生徒が肯定的な回答を示した。</li> <li>● 6/13に避難訓練を実施し、火災時の避難について確認した。また、10/21の地域合同防災訓練において、地震・津波による災害発生時の避難とジュニア防災リーダーによる活動等を、3学期には不審者侵入による避難訓練を計画している。</li> <li>● 魅力的な学校行事・特別授業として、小学校では、たてわり班活動による全校遠足や外部講師による各種出前授業、地域とのふれあい活動等を、中学校では、選択授業や文化発表会の実施・計画し、児童生徒の「感じ方」や「人間性」の醸成を図っている。</li> <li>● 4/4の生活指導研修会で児童生徒の指導に関して確認するとともに、6/21にはスクールロイヤーによる生活指導研修を開き、いじめ事案への対応について理解を深めた。児童生徒理解については、4/6に特別支援全体会を開き、年度初めに児童生徒について共通理解を図った。今後も、人権教育実践報告会や年度末特別支援全体会等を予定しており、教職員の指導力・対応力の向上に努めている。</li> </ul>
後期への改善点
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育活動のあらゆる場面で、児童生徒の人権感覚を培うとともに、いじめ・不登校の未然防止や早期発見・適切な初期対応に努めていく。</li> </ul>

(様式2)

咲洲みなみ小中一貫校 大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校  
令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標								達成 状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】								
全市共通目標(小・中学校)								
<ul style="list-style-type: none"><li>● 小学校学力経年調査・中学校年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を小学校は45%、中学校は55%以上（R04 年度小 36.6%、中 44.6%）にする。</li><li>● 小学校学力経年調査・中学校チャレンジテストにおける国語および算数・数学の平均正答率の対市比及び対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。</li></ul>								
R04	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年	
国語	97.0	97.2	95.3	99.6	83.6	91.8	91.1	
算数/数学	99.2	97.9	96.9	98.0	77.6	104.3	93.9	
<ul style="list-style-type: none"><li>● 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。（R04 年度 90.7%）</li><li>● 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。（R04 年度 68.3%）</li><li>● 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 60%以上にする。（R04 年度 52.9%）</li><li>● 小学校学力経年調査・中学校年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の質問に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童生徒の割合を小学校で 70%以上、中学校で 60%以上にする。（R04 年度小学校 61.5%、中学校 53.7%）</li></ul>								
学校の年度目標								
<ul style="list-style-type: none"><li>● 基礎学力の定着を目指し、学校評価アンケートにおける「家庭学習が習慣になっている」という質問に対する肯定的回答を小学校で 85%以上、中学校で 55%以上とする。（R04 年度小学校 77.5%、中学校 48.6%）</li></ul>								

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【4 小学校 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童が、互いに自分の考えを説明し合うことで、自らの考えを深め広げることができるような授業を展開する。</li> <li>● 一人一台端末の積極的な活用や家庭学習の工夫によって、基礎学力の定着を図る。</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 漢字検定への取組を通して、国語の基礎学力向上を図る。</li> <li>● 年間6回以上の国語科の研究授業を行い、教員の授業力向上に努める。</li> <li>● 英語モジュール授業を週3回以上実施するとともに、指導内容を工夫することで、外国語（英語）への興味関心を高める。</li> </ul>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童を45%以上にする。</li> <li>➢ 学校評価アンケートで「家庭学習が習慣になっている」の質問に対する肯定的回答を85%以上にする。</li> <li>➢ 小学校学力経年調査における国語および算数の対市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</li> <li>➢ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。</li> <li>➢ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。</li> </ul>	B
<p>取組内容②【4 中学校 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各教科において、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業を展開する。</li> <li>● 一人一台端末等 ICT の活用や家庭学習の定着を図ることによって、基礎学力の向上に努める。</li> <li>● 研究授業週間を設定し、「主体的・対話的で深い学び」の視点で参観・研究討議を行い、教員一人一人の授業力向上を図る。</li> <li>● 英語検定への取組を通して、英語の基礎学力向上を図る。</li> </ul>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 中学校年度末の学校評価アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を55%以上にする。</li> <li>➢ 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均正答率の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</li> <li>➢ 英語検定4級以上の合格率を55%以上とする。(R04年度54.2%)</li> <li>➢ 学校評価アンケートで「家庭学習が習慣になっている」の質問に対する肯定的回答を55%以上にする。</li> </ul>	B
<p>取組内容③【5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童生徒が楽しみながら体力の向上を図ることのできる体育科・保健体育科の授業や体育的行事を展開することにより、運動意欲を喚起し運動習慣の定着に努める。</li> <li>● バランスの取れた「運動・食事・休息（睡眠）」に着目させながら、自らの「体力」や「生活リズム」に対する興味関心を高める。</li> </ul>	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 小学校学力経年調査・中学校年度末の学校評価アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を小学校で83%以上、中学校で80%以上にする。(R04</li> </ul>	



<p>年度小学校 80.5%、中学校 77.4%)</p> <p>➤ 学期毎の校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を小学校で 95%以上、中学校で 90%以上にする。(R04 年度小学校学力経年調査 92.2%、中学校学校評価アンケート 83.1%)</p> <p>➤ 学期毎の校内調査における「1 日あたりどれくらいのすいみん時間ですか」に対して、7 時間以上と回答する児童生徒の割合を小学校・中学校ともに 30%以上にする。(R04 年度小学校学力経年調査 25.5%、中学校未調査)</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小学校の学力向上において、指標となる学力経年調査はまだ実施されていない。ちなみに、第 1 回学校評価アンケートでは、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する 4～6 年児童の割合は約 54%であった。今年度は研究教科を国語とし、児童の「考える力」の育成に重点を置き取り組んでいる。家庭学習の定着については、第 1 回学校評価アンケートにおいて「家庭学習が習慣になっている」の質問に対して、約 84%の児童が肯定的回答を示している（1～3 年：約 92.0%、4～6 年：約 75.9%）。適切な分量等にも着目しながら、引き続き習慣の定着を図っていく。また、外国語への興味関心を高めるために、英語のモジュール授業において、Dream を使った学習を中心に、毎月 1 冊英語の絵本を活用している。</li> <li>● 中学校の学力向上においても、当該の調査が未実施もしくは結果待ちである。第 1 回学校評価アンケートでは、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は約 86%であった。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、各教科でさらに取組を進めていく。家庭学習の定着に関して、第 1 回学校評価アンケートの「家庭学習が習慣になっている」に対する肯定的回答は、約 43%と大変低い結果であった。生徒が必要感をもって取り組むことができるようにしていく。</li> <li>● 当該の調査は未実施ではあるが、第 1 回学校評価アンケートでは、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合は、小学校で約 83%、中学校で約 74%であった。今後も児童生徒の運動意欲の向上に取り組んでいく。朝食と睡眠に関しては、「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童生徒の割合は、小学校（1 学期末の校内調査）で約 78%、中学校（第 1 回学校評価アンケートの結果）で約 90%であった。「1 日あたりどれくらいのすいみん時間ですか」に対して 7 時間以上と回答する児童生徒の割合は、小学校で約 58%であった（中学校は未実施）。中学校で 2・3 学期に校内調査を実施するとともに、今後も家庭と連携しながら取り組んでいく。</li> </ul>	
<p>後期への改善点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学力向上については、小中ともに、基礎学力の定着と対話的な学習の推進に向けて、学年・教科でそれぞれの授業を見直すとともに、児童生徒が主体的に学習に向かうことができるよう、学習意欲の喚起に努めていく必要がある。</li> <li>● 健やかな体の育成については、児童生徒の運動意欲の向上に働きかけていくことに加え、児童生徒が自身の生活リズムを振り返り改善していく契機となる取組と保護者への啓発を引き続き進めていく。</li> </ul>	

(様式 2)

咲洲みなみ小中一貫校 大阪市立南港みなみ小学校・大阪市立南港南中学校  
令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p><b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>【ICTの活用に関する目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校評価アンケートで「タブレットやPCを取り扱うことは楽しい」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校で 95%以上、中学校で 85%以上とする。(R04 年度小学校 92.7%、中学校 78.5%)</li> </ul> <p>【教職員の働き方改革に関する目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教職員の月間時間外勤務実績を前年より減少させる。(R04 年度小学校約 29 時間、中学校約 50 時間)</li> <li>● 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 95%以上にする。(R04 年度 89.0%)</li> </ul> <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校評価アンケートで「読書は好きですか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を前年度より増加させる。(R04 年度小学校 82.6%、中学校 57.6%)</li> <li>● 学校ホームページのアクセス数を年間 75,000 件以上とし、保護者地域への情報発信に努める。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ICT の推進を目指し、一人一台端末を活用した学習の機会を増やしながら、効果的・効率的に基礎学力の向上を進める。</li> </ul> <hr/> <p>指標</p> <p>➤ 学校評価アンケートで「タブレットやPCを取り扱うことは楽しい」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校で 95%以上、中学校で 85%以上とする。</p>	B
<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 校務負担の均等化や業務の効率化、取組内容の見直し等を進めることにより、教職員の長時間勤務の改善と年休取得の推進に取り組む。</li> </ul> <hr/> <p>指標</p> <p>➤ 教職員の月間時間外勤務実績を前年より減少させる。</p> <p>➤ 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 95%以上にする。</p>	

<p>取組内容③【8 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 図書委員会の活動や環境整備を進めることにより、児童生徒の読書への関心を高める。</li> </ul> <hr/> <p>指標</p> <p>➤ <b>学校評価アンケートで「読書は好きですか」の質問に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を前年度より増加させる。</b></p>	B
<p>取組内容④【9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校だより等の発行に加え、ホームページの更新、メール連絡等により積極的な情報発信を図る。</li> <li>● 地域行事や近隣施設との交流イベントへの参加を進め、小中一貫校としての魅力を発信していく。</li> </ul> <hr/> <p>指標</p> <p>➤ <b>保護者アンケートの「学校は、小中一貫校としての特色や魅力を発信している」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を 50%以上とする。(新規設問)</b></p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一人一台端末の活用について、第1回学校評価アンケートでは、「タブレットや PC を取り扱うことは楽しい」と肯定的に答える児童生徒が、小学校で約 94%、中学校で約 82%となり、いずれも目標をわずかに下回っている。今後も効果的かつ安定的な活用方法について検討していく。</li> <li>● 長時間勤務の解消について、4～9月の平均月間時間外勤務実績は、同時期の前年度と比べて、小学校で約 31 時間（前年度約 30 時間）と微増、中学校で約 44 時間（前年度約 51 時間）と減少する結果であった。年次有給休暇の取得状況については、9月末時点で、10日以上取得済みの教職員の割合は約 10%（小学校 17%、中学校 3%と未だ低い割合である。ちなみに5日以上の割合は約 68%（小学校 79%、中学校 57%）となっている。</li> <li>● 読書については、第1回学校評価アンケートで「読書は好きですか」の質問に対して肯定的に答える児童生徒の割合は、小学校で約 82.4%と昨年度とほぼ同値、中学校で約 62.7%と昨年度を上回る結果であった。11月には読書月間を計画し、読書への関心をさらに高める機会を設けている。今後も継続して司書を中心とした啓発に取り組んでいく。</li> <li>● 学校・家庭・地域の連携について、第1回学校評価アンケートの「学校は、小中一貫校としての特色や魅力を発信している」の質問に対して、肯定的に答える保護者の割合は約 67%であった。ホームページの更新等、学校の発信に対し一定の理解を得られていると思われるが、今後も小中一貫校として魅力ある活動とその発信を積極的に行っていく。</li> </ul>	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 時間外勤務の削減に向けて、業務の効率や必要度を常に見直し、共有化や効率化を図っていく。また、教職員が年休・時休が取得しやすい環境を整えていくとともに、日々の退勤時間や毎月の超勤時間を意識できるようにしていく。</li> </ul>	